

「人権のひろば」に対するご意見、ご感想は広報広聴グループまたは、人権室までお寄せください。

被災地を支える

赤十字活動とボランティア

皆さん、赤十字社を知っていますか。

赤十字社は人命の救護を目的とし、世界に広がるネットワークを生かして、戦場や被災地のみならず、平時においても人々の生きる力を支える活動を行っている団体です。わが国にも、日本赤十字社があり、国内外における災害救護



自力避難できない要介護高齢者の救助・搬送を行う赤十字救護班員(令和元年台風第19号災害・長野県)
【日本赤十字社ホームページから】

をはじめ、苦しむ人を救うために幅広い分野で活動しています。最近では、甚大な被害をもたらした台風第19号災害(令和元年10月)や、西日本豪雨災害(平成30年7月)で救護班などを派遣し、巡回診療や救援物資の配布などを行いました。

災害現場では、さまざまな人が被災者となります。避難所を開設した場合には、プライバシーを確保するためにパーティションを設置したり、高齢者や障害者が歩行しやすい環境を整えたりすること



市が整備している多言語対応避難誘導標識

が必要となります。他にも、外国人に対して多言語やイラストの併記をするなど配慮すべきことがたくさんあります。

このようにさまざまな配慮を行うためには、多くの人の力が必要となり、赤十字社がすべての活動を担うことは困難です。そこで必要不可欠な存在が、防災ボランティアです。防災ボランティアは、普段から救護訓練や研修などに参加して災害救護活動のノウハウを習得し、災害時にはボランティアセンターの運営支援や安否調査、救援物資の輸送・配布などを行っています。

わが国では、昨今規模の大きい地震の発生などが危惧されており、ボランティアの必要性はますます高まっています。いきなり被災地に行き、活動することは難しいかもしれませんが、日頃から、相手が何を求めている、自分に何ができるのか考えて意識することがボランティア精神となり、ひいては人権尊重につながります。皆さんも、まずは赤十字や防災ボランティアの活動を知り、被災地の状況に思いを馳せるところから始めてみませんか。

生活安全

だより

シリーズ 203

高齢者の被害も増加!!

「簡単に儲かる情報商材」にご注意
相談概要

スマートフォンに出た「簡単に儲かる」という広告を見て、詳しい話を聞こうと思い登録をした。電話で説明を受けたが難しそうなのですぐにキャンセルを申し入れたが、クレジットカードの引き落としが続いている。

アドバイス

副業や投資などで高額収入を得るためのノウハウと称してインターネットなどで販売されている情報商材とされています。

高齢者のスマートフォン所持率が増え、広告に気軽にアクセスすることから、被害も増加しています。

自身でクレジットカード番号を知らせて契約している場合、一方的に解約することはできません。クレジットカード情報を入力する際には慎重な判断が必要です。

簡単に高額収入を得られることはない、広告の言葉のまま信じて、安易に事業者に連絡を取らないようにしましょう。

不安に思ったときは、消費生活センターにご相談ください。

消費生活センター ☎070・0492 (土・日曜日、祝日を除く)

